

## 第7回 複眼で捉える開発 - DPU in London の1年 -

皆さんこんにちは。今回のイギリス通信は、Academic Year 2002 - 2003 に Development Planning Unit, University College London にて MSc in Development Administration and Planning を学んだ森下義亜が担当させていただきます。(Academic Year 2003-2004 に関する最新情報は、<http://www.ucl.ac.uk/dpu/>を参考になさってください。)

Development Planning Unit (通称 DPU) は、総合大学 University College London (University of London の一部です) を構成する数多くの Department, Faculty の一つで、ロンドンの中心から徒歩約 15 分、都会の喧騒から程よく離れた場所にあります。DPU に学士課程は無く、6 つの修士課程 (上記 URL 参照) と博士課程、およびいくつかのトレーニングコースのみを提供しています。学生たちは全部のコースで 100 人前後 (Administration and Planning は 20 人弱でした)、30 カ国以上から集まっています。日本人学生は 7 人と多数派ではありましたが、皆海外経験が少なからずあるせいか、固まりすぎず他国からの学生との交流のほうが多かったです。

今回紹介する MSc in Development Administration and Planning コースは、入学前にも OB から聞いていたのですが、「肉体的にも精神的にもかなりきつい」です。全部で 4 タームあり、第 1、2 タームはそれぞれ 4 科目を履修します。各科目でグループや個人による発表、エッセイ提出が目白押しで、試験も最終授業終了の直後の週にあります。エッセイも 2 タームで合計 15 本書きました。リーディングウィーク (ターム中間にある 1 週間の休み) も泊りがけのワークショップなどがびっちり組まれているので、10 月の授業開始から次の年の 5 月くらいまで、休む暇はほとんどありません。

提供されている科目はバラエティに富んでいます。必修科目は開発学理論、国際政治経済と工業化、土地、環境問題、政府の役割と開発などがあります。また、グループでプロジェクトプロポーザルを書く機会もあります。選択科目でも、都市開発、参加型開発、都市経済開発などがあります。特に第 1、2 タームは授業数がとても多いのでひとつの分野を極めたいという人にはあまり向かないかもしれませんが、いろいろな開発問題を巨視的かつ多角的に考察する機会が多いのは確かです。また、開発の意味の考察や理論中心ではなく、開発の必要性を大前提として、どのようにそれを現実化するかを考えるというのが DPU の特色だと思います。かなり多国籍な教師陣も、色々な角度から開発を語ります。偏りすぎない自分なりの視点を持つきっかけになると思います。

第 3 タームは他のコースの学生と合同で、リサーチトリップがあります。これには、それまでに授業で学んだことを実際の開発の現場に応用するという狙いがあります。昨年は 10 日間ほど西アフリカのガーナの首都、アクラに行きました (ちなみに現地での食費以外は、航空券や予防注射代など全て学費に含まれています)。滞在中は総勢約 50 人の学生が 2 つのグループに分かれ、都市および郊外の貧困問題およびその解決策を聞き取り調査や討論、地元大学や政府関連機関での質疑応答を通して考え、

ロンドンに戻ってからグループレポートを提出しました。第4タームは修士論文執筆です。ここでは、自分の興味のある分野に専念できる機会が与えられます。

先程も書いたように5月くらいまではかなり忙しいのですが、その分5月以降の週末などは学生たちが集まってフットボール(サッカーです)やクリケットなどをしたり、パブに行ったり、いろいろな国の学生が自国の料理を持ち寄ってパーティーをしたりしました。大学内の他の Department や Faculty の学生との交流はあまりありませんが、DPU の学生の間には、皆忙しい時期を一緒に乗り越えたというある種の共同体のような連帯感があります。

また、DPU は「ロンドンにあるロンドン大学の一部」であるということもいろいろな意味で便利だと感じます。ロンドンには世界中から様々な人たちが集まってきており、多様性があります。またロンドンでは開発関連以外にも多くの催し物があるのでそれらに参加しやすいですし、公共施設(大英図書館や大英博物館など)を一般市民と同様に利用することもできます。さらに、DPU はロンドン大学の一部なので大学を構成するたくさんのカレッジの図書館や施設を利用することもできます。

個人的な見解や一般論が多くなりましたが、以上が DPU における MSc in Development Administration and Planning での1年です。ご興味のある方はぜひ DPU のウェブサイトをご覧ください。また特に留学を考えている方は、選択肢の大学等をよく比較し、疑問点があれば積極的に卒業生・修了生だけでなく大学等に直接問い合わせると良いと思います。

2004年2月15日

Project Proposal Writer for the National Union of Eritrean Youth and Students  
Assistant Research Associate for Pastoral and Environmental Network in the Horn of Africa  
ロンドン大学開発管理計画修士(2003年卒)  
森下義亜